

授業評価の結果から何をどのように読み取り分析して、自己の授業における課題を発見し、今後の授業改善に繋げていくかは、個々の教員の判断に委ねられていることは言うまでもない。

そのうえで、全体的な結果を見ると、「予習または復習をよくした」という項目の平均値が、昨年度と同様に3点台（昨年度は3.56点、今年度は3.57点）に止まっている。また、他の項目に比べ、「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」という項目の平均値も、昨年度と同様に4点台下方（昨年度は4.07点、今年度は4.09点）に止まっている。他方、「総合的にこの授業を評価できる」という項目の平均値が4.39点であることには安堵するとともに、これらの数値から推測できることは、教員は、高度な科目内容を分かりやすく伝え、学生の興味を引くよう話題を提供するなど様々な工夫・努力をされているが、それが必ずしも学生の十分な勉学意欲にまでは繋がっておらず、そのため、授業のレベルに追いつくことができない学生がある程度いる、ということではないかと思われる。

教員のできることは限られており、大学は本来、学生が主体的に「自ら学ぶ」ことを前提としているが、教員の側でも以上のことを再度意識し、引き続き、学生の「自ら学ぶ力」をより引き出すべく努力を重ねていく所存である。